

さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 小久保 隆
編集 広報委員会
発行日 2019年3月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「ほんわかバブルの お・し・ろ」 鳥根小 6年 富田 結愛

目次

各種表彰受賞者名簿	2
東京都民生委員・児童委員大会	3
合同視察研修	4
主任児童委員会視察研修	5
シリーズ老後を考える	6
こんなことがありました	7
シリーズ「子どもたちはいま」	8
編集後記	

平成30年度合同視察研修

足立区民生・児童委員協議会 会長 小久保 隆



足立区民生・児童委員協議会では平成23年からPR週間事業を通じて、足立区と災害時相互応援協定を結んでいる福島県相馬市への復興応援を行っています。

足立区民生・児童委員協議会は東日本大震災から10年間は相馬市を応援しようということで、今年は直接現地を訪れ、被害状況や復興状況を直接見聞きたいという私の思いに、各民生・児童委員の皆さんからの賛同をいただき、全合同が視察研修先を相馬市とする合同視察研修が実現いたしました。

まず、研修先の相馬市社会福祉協議会 只野会長はじめ今野常務理事ならびに職員の皆様、ご主人と叔父様を亡くされ悲しみが癒えぬ中、辛い実体験をお話いただいた民生・児童委員OBで語り部の五十嵐さん、相馬市内の被害状況や復興に関する問題点も含め詳細に説明していただきました相馬市観光協会の皆様な

ど、全七合同の受け入れにご協力くださいました相馬市の皆様に厚くお礼申し上げます。

今回の視察では、宿泊先のご主人が撮影した、まさに目の前まで津波が迫り来る映像を拝見させていただきました。実際に撮影された場所に立ち、映像の景色と重ね合わせながら港の景色を見た時、恐怖や悲しみは計り知れないものであっただろうと大変胸が締め付けられる思いでした。

また、バスの車窓から見た帰還困難区域や海岸沿いの景色は、震災の爪跡を今なお残しているものでした。この現実を改めて見つめ直し、悲しい記憶を風化させてはならないと再認識いたしました。

今回、視察研修に残念ながら参加できなかった方もおられますが、本研修で見聞きしたこと、肌で感じたことを足立区民生・児童委員協議会の中で共有し、今後も相馬市への復興に向けた応援を続けさせていただきたいと思っております。



平成30年度 民生・児童委員各種表彰受賞者名簿 敬称略



叙勲 瑞宝単光章

平成30年4月29日発令 (1名)

山本 祥一

東京都知事表彰

平成30年10月1日現在

特別功労賞

在職17年以上の方 (2名)

中田美佐子 渡邊 進

一般功労賞

在職10年以上の方 (57名)

木下 義男	笠井 一子	林 秀樹	田中千寿子	山崎 臣男	松浦 恵子	篠原 久子
杉浦 幸子	友金 要江	羽住 圭規	張元 陽子	工藤 信子	岩井登茂子	百瀬香代子
鷺見 竹由	大池 勝巳	酒井ノリ子	滝上久美子	稲見フジ子	望月 典子	池田 節子
井上みよ子	海老名佳子	森 葉子	加藤 宏一	神崎 守弘	木下つな子	風見くみ子
中村 幸雄	鈴木 静江	後藤 芳子	杉山 五子	小野 早苗	土井 人示	高波 国男
林 政子	國分 道代	山本 信子	田村 淳一	齋藤佐千子	登坂 光男	坂田ヨシノ
西本 和子	坂田 行雄	中村 英子	岡部 京子	澁谷 睦子	横田 麻子	西野 幸男
柴田 政子	中崎 幸子	高橋 和彦	鳥海 清子	高橋 誠一	岡田 正子	堀江日出子
甘利みちる						



全国民生委員児童委員連合会会長表彰

永年勤続民生・児童委員表彰

平成29年11月30日現在
在職10年以上の方 (51名)

木下 義男	笠井 一子	林 秀樹	田中千寿子	山崎 臣男	羽住 圭規	張元 陽子
工藤 信子	百瀬香代子	鷺見 竹由	大池 勝巳	酒井ノリ子	滝上久美子	稲見フジ子
望月 典子	池田 節子	海野 正子	井上みよ子	森 葉子	加藤 宏一	神崎 守弘
早川 元康	木下つな子	青木てる子	風見くみ子	中村 幸雄	鈴木 静江	後藤 芳子
杉山 五子	小野 早苗	土井 人示	高波 国男	林 政子	國分 道代	山本 信子
田村 淳一	齋藤佐千子	坂田ヨシノ	西本 和子	坂田 行雄	中村 英子	岡部 京子
横田 麻子	西野 幸男	柴田 政子	高橋 和彦	鳥海 清子	高橋 誠一	岡田 正子
堀江日出子	甘利みちる					

全国社会福祉大会 全国社会福祉協議会会長表彰

平成30年4月1日現在
在職15年以上の方で都民連の推薦による (1名)

小久保 隆

東京都社会福祉大会 東京都社会福祉協議会会長表彰

平成30年10月1日現在
在職9年以上10年未満の方で都民連の推薦による (1名)

佐藤 和子

足立区表彰 社会福祉功労 (民生委員・児童委員)

平成30年10月1日現在
在職10年以上の方 (55名)

木下 義男	笠井 一子	林 秀樹	田中千寿子	山崎 臣男	篠原 久子	杉浦 幸子
友金 要江	羽住 圭規	張元 陽子	工藤 信子	百瀬香代子	鷺見 竹由	大池 勝巳
酒井ノリ子	滝上久美子	稲見フジ子	望月 典子	池田 節子	井上みよ子	海老名佳子
森 葉子	加藤 宏一	神崎 守弘	木下つな子	風見くみ子	中村 幸雄	鈴木 静江
後藤 芳子	杉山 五子	小野 早苗	土井 人示	高波 国男	林 政子	國分 道代
山本 信子	田村 淳一	齋藤佐千子	登坂 光男	坂田ヨシノ	西本 和子	坂田 行雄
中村 英子	岡部 京子	澁谷 睦子	横田 麻子	西野 幸男	柴田 政子	坂田 行雄
高橋 和彦	鳥海 清子	高橋 誠一	岡田 正子	堀江日出子	甘利みちる	中崎 幸子



第72回東京都民生委員・児童委員大会

救済委員制度誕生 100周年

昨年は救済委員制度誕生 100 周年の節目の記念大会として平成 30 年 11 月 21 日（水）文京シビックホールにて開催されました。東京都知事表彰の被表彰者は 1,171 名、うち足立区民生児童委員は 59 名が表彰されました。東京都民生児童委員連合会会長感謝状は民生児童委員所管職員 20 名（足立区 1 名）と関係機関・団体職員 25 名に贈呈されました。救済委員制度誕生

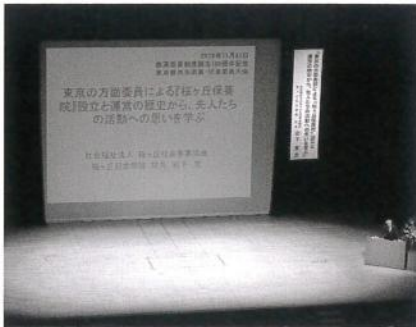
100 周年記念東京都民生委員・児童委員大会宣言（案）が朗読され採択されました。

世田谷区民生委員・児童委員のコーラスのあと記念講演がありました。

（10 地区 渡邊進 記）

記念講演 — 社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院 院長 岩下覚氏 —

「東京の方面委員による『桜ヶ丘保養院』設立と運営の歴史から、先人たちの活動への思いを学ぶ」



桜ヶ丘記念病院（当時桜ヶ丘保養院）は昭和 15 年に当時の東京市方面委員の皆さんのひたすらご尽力によって誕生しました。精神

科の病床数が、諸外国との比較において圧倒的に多いのが現状です。

近年は、うつ病、アルツハイマー病の高齢の患者が増えています。長期入院患者の地域生活への移行と定着をめざし、地域包括ケアシステムの構築と互助、ケアサポーターの支援が必要です。したがって、民生・児童委員に対する期待は大きくなります。

科・神経科専門病院として開設され、当初より医療と福祉の連携、公共的で民主的な姿勢に基づいた病院運営を目指してきました。

講演中、当時東京帝国大学教授であった呉 秀三氏が刊行した「精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」中の「わが邦何万の精神病者は実にこの病を受けたる不幸の他に、この邦に生まれたる不幸を重ねるものというべし」という記述に衝撃を受けました。精神医療関係者の方々には、敬意と感謝をお伝えしたいです。

我が国の精神医療の歴史を振り返ると明治初期までは、精神保健分野は、全く法的規制のないままでした。精神病の治療は、その殆どが加持祈祷に頼っていました。明治 33 年には精神病者監護法が施行されましたが、私宅監置の合法化でした。遅まきながら、昭和 25 年に施行された精神衛生法では、私宅監置は禁止されました。そして、精神医療関係の法整備が行わ

（常東地区 齋藤祐子 記）

*私宅監置…日本にかつて存在した制度。精神障がい者を自宅の一室に閉じ込め監護すること。

叙勲祝賀会

山本祥一 第六合同会長



山本祥一第六合同会長が、昨春、瑞宝単光章を受章され、平成 30 年 12 月 8 日浅草ビューホテルで祝賀会が開催されました。発起人代表である小久保隆連合会長をはじめ、民生・児童委員、町会自治会、青少年委員等関係者 128 名の方々がお祝いにつけました。

式典では近藤やよい足立区長やかねだ正足立区議

議長他たくさんの来賓から祝辞がありました。

祝賀会が開催された 12 月 8 日は奥様の 70 回目の誕生日との事でこの日に決めたそうです。山本会長が奥様へ感謝の意を表し、70 本の赤いバラをプレゼントされた様子は大変微笑ましいものでした。また、元タカラジェンヌの親族の方によるレビューショー等の余興も披露され明るく楽しい宴となりました。

山本会長の謝辞は「昭和 58 年に民生・児童委員となり、今までの経験を活かして、今後も地域福祉の増進に精進していく所存です」との頼もしいお言葉でした。明るくユーモア溢れる素晴らしい祝賀会でした。

（広報委員会）



平成30年度 合同視察研修

平成30年度の合同地区協議会視察研修は、小久保連合会長のご提案により、「足立区と災害時相互応援協定を結んでいる相馬市を応援する」をテーマに、全合同が視察研修先を福島県相馬市に決定し応援させていただくことになりました。

合同視察研修は、9月28日出発の第七合同から始まり、10月下旬頃に第一、第五、第四、第三合同と

続き、11月7日出発の第六合同、11月25日出発の第二合同の順に1泊2日の行程で開催されました。

視察内容は、国道6号線 富岡～大熊～双葉～浪江間の帰宅困難区域を車窓見学、相馬市伝承鎮魂記念館への訪問、相馬市社会福祉協議会での研修、防災備蓄倉庫の見学、また、相馬市内の仮設店舗の食堂で昼食をいただきました。



帰還困難区域



伝承鎮魂祈念館 慰霊碑にて



相馬市殉職消防団員顕彰碑

復興は、発災から半年の緊急支援期、～2年の生活再建期、～5年の復興支援期と段階を経て進められ、相馬市では東日本大震災発災時から立谷秀清市長の強力で適切なリーダーシップのもと、現在は、生きがい・仕事づくり・コミュニティづくり等の協働による復興まちづくりへの支援を行っています。災害支援のニーズ変化に多様で丁寧な援助を実施され、着実に地域の復興に向けて歩みだしています。

立谷市長は相馬市出身の医師であり、現在全国市長会会長を務める方です。復興の施設基本方針に「被災前の原風景を拠処に、震災を忘れず市民の心をつないでいく」を掲げ、復興建物の漁業施設・災害公営住宅・新防災備蓄倉庫・伝承鎮魂祈念館・市庁舎等すべてを和風デザインとしました。また、長屋タイプの災害公営住宅では、孤立を防ぐために洗濯場を共同にしてコミュニティの場所とするなど細部に気配りがされています。

訪問した伝承鎮魂祈念館では、津波によって失われた原風景を伝える映像や写真を見学し、慰霊碑への献花後全員で黙祷を行いました。

相馬市社会福祉協議会では只野会長からご挨拶をいただいた後、震災語り部の五十嵐ひで子さんによるお話と相馬市協会の今野常務理事から災害発生時の民生・児童委員の重要な役割及び活動内容を詳細に伺い

ました。当時民生・児童委員で、ご主人と叔父様を津波で亡くされた辛く厳しい実体験を、語り部として気丈に明るくお話いただいた五十嵐さんには感動いたしました。

また、只野会長のお嬢さんでピアニストの只野なつきさんが、震災発生直後からボランティアでコンサートを開催し相馬市民を元気づけるとともに、収益金を相馬市社会福祉協議会に寄付されていると伺いました。

見学した防災備蓄倉庫は有事に備えて毛布や水、米等を蓄えるほか、平常時には災害時応援協定締結自治体との地域間交流施設や防災教育施設としての役割も担い、愛称は相馬中村藩時代を思わせる『相馬兵糧蔵』とのこと。緊急離発着ヘリポートがある敷地内には、相馬市殉職消防団員顕彰碑が建立されており、黙祷を捧げました。

帰宅困難区域の車窓見学では、除染作業時に発生した大量の放射能を含有した袋詰め土砂仮置き場、いまだ基準値を超える放射性物質の観測データパネル、出入り口が固くガードされた無人の家屋などが確認でき、原発事故の恐ろしさを痛感しました。

大変有意義で緊張もした2日間の視察研修となりました。

(広報委員会委員長 鶴田晴久 記)



平成 30 年 9 月 21 日（金）に主任児童委員会で、東京シューレ葛飾中学校へ視察研修に行きました。この中学校は不登校を考える親の会が作った私立の中学校です。不登校に関して国の考えが変わり、「不登校は問題行動ではない。学校復帰を無理にめざしてはいない」この基本理念で東京シューレ葛飾中学校の学び

は、文部科学省から正式に認可を受けた特別な教育課程のもとで行われています。一般の中学校より、国・社・数・理・英は 1 コマ 40 分、音楽・美術・スポーツは 1 コマ 60 分で少なめの時間数でゆったりとした学校生活を送れ、子どもの個性を伸ばしやすくする工夫の 1 つです。

その他に、マイコース部門とホームスクール部門を設けています。マイコース部門は教室ではなく、個人のスペースで学習ができます。ホームスクール部門は IT を活用し自宅で在宅学習をして、月 1 度の登校。多様なサポートを受けて、生徒たちは先の進路を目指していきます。

当日校内で会った生徒たちは、皆明るくて楽しそうにしていたのが印象に残っています。

（江新地区主任児童委員 大庫悦子 記）

町会自治会『地域を訪ねて』 パークで筋トレ



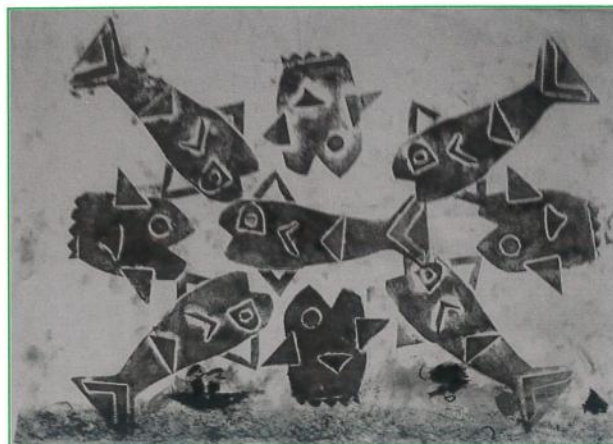
「パークで筋トレ」は、高齢者の介護予防や健康増進、居場所作り、公園の有効利用を目的に平成 21 年度より開始されました。当初は 1 会場からのスタートでしたが、平成 30 年現在では 28 会場で年間約 600 回開催され、年間累計約 15,000 人の方にご参加いただいています。各会場では原則隔週開催で、指導員の指導のもと、ストレッチ、ウォーキング、体操、公園器具を使った軽い筋力トレーニングなど、指導員毎に工夫をしながら毎回 1 時間程度の運動を行っています。

最近の取り組みとしては、平成 30 年 6 月に指導員と新規に指導員を希望する方を対象として「指導員講習会」を行いました。内容は、一部の会場で行われている「コーディネーショントレーニング（体を巧みに動かす神経系の能力を高める運動）」の指導方法に関する知識の共有や、熱中症対策に関する講習などです。各指導員の指導力の向上を通して、事業の魅力増

加を目指す他、新規の指導員の募集・育成を通して、区内の新たな人材を発掘することを狙いとしています。今後も定期的に開催していければと考えています。

「パークで筋トレ」は高齢者の介護予防を本旨としながらも、子どもから高齢者まで、多世代が集う公園という空間を活用するという面や、近所の高齢者同士の繋がりを育むという面でも大変重要な事業です。区内全ての高齢者が身近な公園で手軽に運動を楽しみ、その活力が地域の力となるよう、これからも取り組んでいきたいと考えています。

（スポーツ振興課 記）



「月と魚」
関原小 4年 清野勝文



人生 100 年の時代といわれる現在、足立区では総人口約 68 万 8 千人のうち、4 人に 1 人にあたる約 17 万人の方が 65 才以上です（平成 30 年 11 月現在）。平均寿命も当然延びております。その中で忍び寄り認知症の不安も否めません。

できる限り自分の健康は自分で守るための一例として、地域にある住区センター利用にチャレンジしてみたいかがでしょうか。

足立区には 48 館の住区センターがあります。今回紹介させていただく舎人住区センターは 1 階に舎人区民事務所、2 階・3 階に図書館と地域学習センターがあり、立地条件にも恵まれております。特に年間 8 万

6 千人以上の方が利用している日暮里・舎人ライナーが開業してからは人口も増え、来館者数上位をキープしております。

悠々館（65 才以上）には大広間・娛樂室があり、マッサージ機ヘルストロンがあります。各教室の募集では、定員を超える応募があり抽選を行うほどです。おはよう体操、バンパー、カラオケ広場、盆踊り、囲碁、将棋など朝 9 時から夕方 4 時まで自分の都合に合わせて自由に参加できます。また行事として盆踊りも桜まつり演芸大会などに参加しています。夏には熱中症対策もあり、季節によっていろいろ工夫をしています。

月 2 回、午後 5 時から 7 時まで開催される住区 DE 団らんでは、夕食をしてゲームやカラオケを楽しんでいます。

一人暮らしの方が急にセンターに来なくなった時などは職員の方や利用者の方が心配され連絡される事もあるようです。仲間でも年 1 回旅行に行かれるグループもあります。楽しい事が待っています。是非、お近くの住区センターへ。

（14 地区 丸山まさ子 記）

ぶらり足立

ごぼう市

ごぼう市の歴史は古く、戦国末期の段階で既に六斎市（月 6 回開催）が開かれていたと云われています。江戸時代に入ると伊奈氏（代官頭）の赤山陣屋への人馬継立の宿駅として大変賑わった様でしたが、伊奈氏が没落してからは農村地帯に変わってしまい、しかし歳和市として正月用品やごぼうの販売は続いていたそうです。

戦後の物価統制時代には「闇市」として摘発されたり、昭和 42 年の赤山街道の拡幅工事で中断しましたが、平成 5 年より舎人町会・文化部の皆さんの熱意で復活致しました。

今日では、12 月 23 日（祝日）氷川神社境内で、「舎人文化市」と名称を変えて行われています。主催は舎人町会・文化部で、地元の農研親栄会による採りたて野菜と伝統のごぼうも声高らかに販売しています。フリーマーケットや文化部の皆さんによる手作りの焼きそば・舎人ライナー焼きなど多数の出店で賑わ



っています。当日は地元の小学校によるジュニアバンドの演奏で始まり、大変な盛り上がりの中でスタートします。

今では、地域の年末行事としてかせない催事となっています。

（舎人町会 大熊久三郎 記）



こんなことがありました 高齢者の見守りで悩む事例

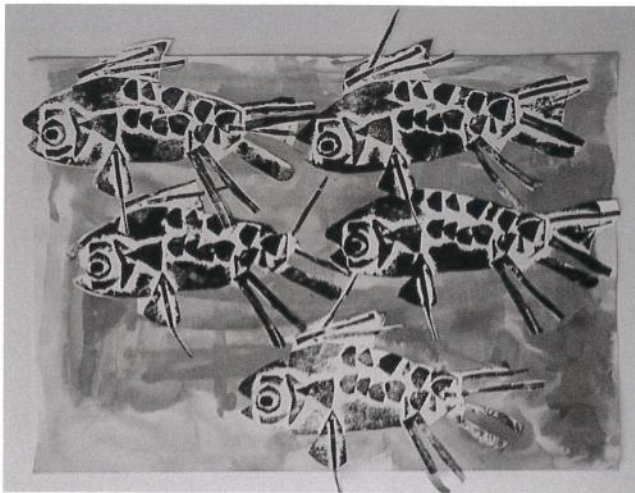


私の担当地域は、まだまだ隣近所の付き合いが残っています。Aさんは、ひとり住まいの90代半ばの女性です。ご主人、息子さんを亡くし、他区に住んでいるお嫁さんが、週1回ほど来ています。お友達も高齢になり、訪ねてくれる方もめっきりと少なくなりました。お身体はお元気ですが、耳が遠く多少認知機能も衰えてきています。大変気が強く週1回利用のヘルパーさんも数えきれないほど代わりました。デイサービスも通っておりません。

長年住んでいるので、ご近所の方々がお漬け物やおかずを届けたり、声かけをしてくださっていました。私は、皆さまの見守りを心強く感じていました。しかし、インターホンを鳴らしても電話をかけても連絡がつかず、近所の方が家の中の様子に異常を感じたことが数回ありました。そのつどお嫁さんに連絡をとって来ていただきました。Aさんのお話では、耳が聞こえなかっただけで寝ていたとのことで大事にはなりませんでした。

残念なことに「近所の方は、自己満足で親切にしているだけで私は迷惑。もう十分生きたのでいつお迎えが来てもいい」「お嫁さんに迷惑をかけたく無いので構わないで」との相談を受けました。近所の方々は大変立腹なさっていましたが、気持ちを尊重することにいたしました。そして、付かず離れず見守り、お願いされたら協力することにいたしました。高齢者の見守りの難しさを感じた出来事でした。

(常東地区 齋藤祐子 記)



「きれいな魚たち」
関原小 5年 箱田憲臣



足立区立谷中中学校

帰り道 土手によこたう 夕焼けや
自分の影と 下校の旅
二年 佐藤 凜

鍋蓋を 開けると 眼鏡真っ白に
笑いあえる ことの幸せ
二年 鈴木 乙花

雲海の 空を見下ろし 深呼吸
夢に向かって 今歩き出す
二年 田中 蓮

稲をびく 涼しい風に 誘われて
振り返り見れば 富士の山なり
二年 田丸ひとみ



「シチューとかカレーに入ってる野菜」
梅島第一小 5年 宮原勝利



シリーズ「子どもたちは いま」 『おもちゃの図書館』紹介



皆さん『おもちゃ図書館』ってご存知ですか？

「障がいのある子どもたちにおもちゃの素晴らしさと楽しさを」という願いで始まりました。

足立区で唯一この活動を行っているのが『トイライブラリーぼけっと』です。創立35年を迎える当会は、障がいのあるお子さんを持つ4人のお母さんが立ち上げました。「体の弱いお子さんや障がいを持ったお子さんが自由に楽しく遊べ、同じ悩みを持つ保護者が交流できる場所を作りたい」と始められたそうです。当初は、障がいを持つお子さんとそのご家族しか受け入れられませんでした。今は健常のお子さんも受け入れています。

毎月第一日曜日、竹の塚地域学習センターでおもちゃ図書館を開いています。学校の教室くらいの部屋の奥が小上がりの畳敷で、壁や窓際にはたくさんのおも

ちゃが所狭しと並んでいます。絶えず訪れる親子連れのお子さんたちは、靴を脱ぐのももどかし気におもちゃを目指します。親子で遊んだり、親同士やスタッフと語り合うなど穏やかな時間が流れます。子どもたちは気に入ったおもちゃを借りて嬉しそうに抱えて帰ります。二人の男の子を連れてお父さんは「10歳になる姉の子育て中からの、長いお付き合いです」また別のお母さんは「トイドクターさんに修理していただいたのがきっかけです。借りてお試しできるのが有難いです」など、利用者の活用が立ち上げ時の思い以上の広がりを見せています。

スタッフは布の絵本やおもちゃを作る『手作り班』と、修理担当の『トイドクター』を含め13人です。長い活動の中で利用者は変わってきますが「発達に支援の必要な子どもたちのための遊びの図書館」という原点はスタッフみんなの変わらぬ思いです。

(6地区 田中礼子 記)



←「手作り班」作成の数々のおもちゃ

編集後記

私たち広報委員が発行に関わっている広報誌『さくら』ですが次回で50号となります。民生・児童委員や主任児童委員はもとより足立区内公共施設・町会自治会役員をはじめ多くの方々に読まれています。毎号、委員が編集・校正を繰り返した結果が印刷さ

れています。

今のメンバーで発行する広報誌は、あと一年です。各委員はさらに読みやすく、見やすい広報誌を皆様へご提供していく所存です。

(鹿浜地区 鈴木健治 記)

○小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、

第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

○皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります) 次号発行予定日 7月1日

広報委員会

委員長	鶴田晴久	副委員長	金子みどり	書記	山崎秀夫	会計	丸山まさ子	編集	田中礼子	レイアウト	齋藤祐子	櫻井春子	校正	森葉子	編集委員	吉田祐一	渡邊進	福原健	鈴木礼治	江川和子	金宮恒雄	鈴木恒雄	校正委員	星野明美	松浦恵子	上野剛	矢野敏	志賀博人	足立由美子	渡辺章子	小川玲子	益塚玲子	赤羽賢月
-----	------	------	-------	----	------	----	-------	----	------	-------	------	------	----	-----	------	------	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	-----	-----	------	-------	------	------	------	------